

芦安ファンクラブ通信

第16号
冬号

NPO法人
芦安ファンクラブ
南アルプス市芦安
芦倉 1589-8
事務局：(大滝)
055-288-2531

「芦安ファンクラブ」 知事と語る

新たな年を迎えた一月二十六日に山本栄彦知事が県内地域住民と意見交換する地域対話会「こんにちには、知事です」が、南アルプス市の四カ所でそれぞれの地域で活躍している諸団体との意見交換会として行なわれた。南アルプス市役所で市長始め市幹部と懇談後、最初の会場である芦安山岳館を訪れた。一番目は私達芦安ファンクラブとの意見交換になっている。初めて南アルプス芦安山岳館を訪れた知事は関係者の説明に耳を傾けながら館内の展示物や芦安の登山史、案内人のコーナー、白簾史朗氏の山岳写真を見学後、「語り部の部屋」に入り車座に囲炉裏を囲むような形で対話が始まった。

花岡会長より会の沿革とファンクラブのメンバーが丁寧に紹介され、事務局清水より主な活動状況の概略が説明された。その後、山本知事自らが進行役を務め和やかな雰囲気様々な意見交換がなされた。まず花岡会長から、昨年は南アルプス林道の崩落により地元の宿泊施設や小屋経営者らは大打撃を被った。登山愛好家にとっても、林道の通行止めは南アルプスの登山の妨げに少なからず影響したこと、林道が安全に通行出来るように、危険個所の整備を進めてもらうよう要望し

た。次にファンクラブ流の登山教室の説明から、すばらしい山に囲まれた山梨県だからこそ「県庁に山岳課を設置したらどうか」という大胆な意見が深

沢氏より提言された。知事は「登山教室はすばらしい事だ。しかし年二回ではちよつと少ない気がする。参加者の期待に添うような形で四季を通じて是非とも回数を増やす方向で活動してほしい、その上で山岳課が設置できるように検討したい」と逆に尻を叩かれた。高山植物に魅せられて半世紀を誇る宮下氏から県の保護条例で指定保護されている一部の高山植物が人災や新たな野生動物の食害で絶滅危機に瀕している現状を訴え、状況に適した行政での自然保護活動の推進を強く要望した。最近芦安の味自慢の一つでもある手打ち蕎麦の会「甲斐ヶ峰庵」の千野会長からは「南アルプス市を訪れる人々に、知事さんも県民祭りで太鼓判を押してくれたこの芦安の蕎麦を多くの人に提供する施設が欲しいんです」と知事と隣に控えていた石川市長にも訴えていた。最後には文学部の雨宮氏より知事の地元である甲府市積翠寺の古い文化を例に挙げ、芦安の山岳文化の拠点「南アルプス芦安山岳館」へのファンクラブの関りや、今後ともここを中心にして充実した活動を続けていきたいとの決意が話された。まとめの中で山本知事は、「南アルプス市には芦安ファンクラブのような組織があつてうら

やましい。私の地元（甲府市積翠寺）にもファンクラブがあれば率先して頑張るんだが」と、外交辞令の後に、この地域は特産である林業、農業、山岳観光を新しい形で生かした滞在型の観光地として発展できるのではないかと語り、市とNPOとの連系による活性化に期待をほのめかしてくれた。

ルプス山麓めぐりのこの日、忙しい日程ではあつたが、日々の激務から開放された知事の素顔が拝見でき、身近な感覚で意見交換が出来た事は貴重な体験であつた。穏やかな風貌の中からにじみ出るパワーに今後の活動への力添えを戴いたような気がした。山梨県の発展の為にご健勝で活躍される事をご期待いたします。

ファンクラブ 手塚記



次にほたるみ館や鬼面瓦施設等の南ア



おだやかな新春、赤く染まる北岳

芦安ファンクラブ会員の お二人がうれしい受賞



昨年夏、茨城県霞ヶ浦で開催された第四十五回自然公園大会で、当会副会長の南アルプス広河原山荘管理人塩沢久仙氏が長年の高山植物の保護活動、遭難救助活動等から環境大臣賞を授与されました。また、葦崎警察署塩崎派出所に勤務する会員の渡辺典美さんは、このほど長年の勤務姿勢が評価され、『県民の警察官』を受賞されました。

芦安ファンクラブとの出会い

渡辺典美

私は転勤族であり、芦安ファンクラブが発足したと、クラブの目的、目標等を新聞で知ったのが上野原署勤務のときでした。一緒に登山を学びたいと思っていたところ、葦崎警察署へ転勤となったので、早速参加したのが第二回登山教室でした。それから、毎回参加するように心がけましたが、前回の鳳凰山は都合が会いませんでした。

私の登山への関わりは、若き二十代に富士吉田警察署で「御坂山岳会」から山岳救助の訓練を受け、厳冬の富士山、春山、パトロールなどの経験をしました。その後は甲府警察署へ転勤となり登山との関わりがなくなり何十年が過ぎてしまい、登山への感心も薄らいでしまった時期に息子が富士山に登りたいと言いだしたので、「昔とつたきねづか」で登頂させたのがきっかけとなり、その他の山にも登るようになりました。

これまでの登山は、救助やパトロールという仕事面だけだったのに、余暇、スポーツとしての登山を初めて経験し、親子またはグループ登山がこんなにもいいものだと思ったことが「登山に病みつき」の始まりでした。その後は息子と北岳、穂高へ、夏になれば

仲間と北アルプス縦走を毎年計画に組み込み、「今、楽しい登山」を目標にしています。甲斐の国は百名山の内、十二峰を有し、このうち私の勤務する葦崎警察署では、鳳凰山、茅が岳、瑞端山、金峰山に関係し、「白鳳会」の皆さんにお願いして救助活動に関っています。私は個人的には「南アルプス」と名乗り、楽しい登山を研究中であり、山に関して知れば知るほど山とは深い懐を広げている。特に南アルプスは母なる懐だと思ふ。山容が美しく、時にやさしく、時に厳しく、いつでも私自身を溶け込ませてくれる山であると感じています。それはなぜなのか、これからはその謎の解明に取り組みたい。



仲間に祝福され山好きな奥様とうれしい受賞

《蛇足》私の住んでいる双葉町は鳳凰山から真東に位置し、毎朝夕、鳳凰山を間近に拝しています。従って、春、秋の彼岸に日が沈むところが極楽浄土であるといわれています。真に私の位置からすると芦安ファンクラブが極楽浄土そのものなのです。

これからは、芦安ファンクラブを通して南アルプスの神祕を探り、知ることから愛すること。奉仕の心を大切にしたい。

『登山は人づくり、

自分づくりへのチャレンジだ！』

環境大臣賞を受賞して

塩沢久仙

四十六億年前地球が誕生してから長い時間をかけて水や空気それに生物が生まれ現在の地球環境が造られてきました。この途方もない時間からすれば人類が生きてくるのは瞬間でしかありませんが間違いなく地球の歴史を作っていく大きな役割を担っているはず。それならば、今日まで人々に限らない恵を与えてくれた地球環境を傷つけることなく未来に引き継いでいくことが今を生きる私たちの勤めです。と大上段に構えてみても相手が大きすぎず：しかし、私たちが同じ考えを持ち真剣に取り組んでゆけば巨象に対して「意志ある蟻一匹」を産むことは不可能ではないはず

昭和三十年代前半から山登りを始め、南アルプスに惹かれ、ついには山小屋の管理人として山で暮らすようになって山が生活の場になってみると、山を私物化するつもりは毛頭ありませんが、自然保護以前にゴミや空き缶の散乱を防ぎ、お世話になる山々を荒らされたくない気持ちがかくく自然に芽生えます。自然環境破壊は一人でも可能ですがその復元には大勢の人々の手と長い時間が必要です。そんなことにならないように、たくさんの身近な仲間たちと共に「意思のある蟻一匹」を産むために、良好な自然環境の基準や環境キャパシティの模索、啓蒙活動の方法等課題は山積ですが高山植物を中心に自然環境保全に地道に勤めてまいりました。

山小屋の管理人として四季を通じて数々の遭難事故の現場に立ちます。遭難事故の原因は、本人の不注意、無謀登山等さまざまですが、不可抗力ではなくいずれの場合でも当事者の側にあります。とはいえ、苦しんでいる遭難者を見ると「早く苦しみから解放してあげたい」また不幸にして亡くなった場合でも「早く家族の許に」という思

いで一杯になり、わが身の苦しさや危険も顧みず純粋な気持ちで救助や捜索に当たったり、遭難事故防止の呼びかけを警察署との連絡を密にとりながら行っています。ここでも自然保護活動と同じように一人でできることはほんの僅かです。献身的な警察署員や地元の人々にかかわる人々の連携が迅速で的確な事故処理を見事に仕上げてくださいます。ですから今回は志を同じくする「芦安ファンクラブ」遭難防止大久保基金の会「そのほか大勢の人々との共同の受賞で山々がくれたたくさんの仲間たちとの共同の受賞だと思っております。にもかかわらず大勢の皆様から祝福を受けて恐縮至極です。ありがとうございました。



山と自然を熱く語る塩沢久仙氏

山岳自然環境破壊や山岳遭難事故は不完全な人間の行為が係わっている以上、完全に防止することはできません。だからといって何もせずいたら、山は無法地帯になってしまうでしょう。理想は全ての人が、崇高な山々の自然に畏敬の念を抱き感謝の心を持ち、自己の責任において安全を確保しながら謙虚に接することだと考えます。これからは志を新たに、この活動を根気よく芦安ファンクラブの皆様と共に続けてゆく所存でおりますので良きご指導をお願い申し上げます。

本当におめでとうございました。これからもお元気でご活躍される事をお祈りいたします。 会員一同より

北岳ゆめ倶楽部 活動は登山から「山の講座まで」

山好きな市役所の職員が結成した北岳ゆめ倶楽部が発足して半年。倶楽部結成のいきさつは前号でご紹介したので、この間の活動を紹介します。

平成十五年十月十一日「栗沢山・アサヨ峰」、十一月二十二日「夜叉神峠・高谷山」、平成十六年一月三日「新春登山「夜叉神峠」、二月八日「櫛形山」

結成当時の部員は北岳研修登山に参加した十六名、そして現在二十二名。登山に参加するのは部員ばかりではない。「山に登って見たいけど、ひとりではちょっと」或いは「連れていってもらえるなら」と思っている職員も活動の視野に入る。

新市発足後、初めての夏山シーズンとなった昨年、市役所には県内外の登山者から天候や登山道の整備状況、林道の開通情報など数々の問合せがあったが、開庁時間帯や旧芦安村出身の職員ならいざ知らず、宿日直では知るよしもない。商工観光課で用意されたマニュアルどおりに伝える以外ない。そんな歯がゆさと、研修登山に参加し南アルプスの自然に魅了された職員は口々に言った。「市の名称ともなった南アルプスをもっと知りたい」と。だから条件さえ許せば、登山の参加募集は、部員を中心に市職員全体に行なっている。

「栗沢山・アサヨ峰」登山は、参加者の体力に合わせてコースを二ルートに分けて実施した。まさに秋真っ只中のこの季節、問合せに適切な紅葉情報をお伝えできるようにと商工観光課長をはじめとする職員も参加した。発足間もない倶楽部でありながら、二

ルートで登山を楽しむなど、多様な活動が展開できるのは顧問の存在にほかならない。塩沢久仙・裕子ご夫妻、宮下重晴さん、手塚秀美さんである。それに職員には青木支所長がいる。

晩秋の高谷山は、その良さを塩沢さんから伺っていたとおり、厚く敷き詰められた落ち葉が歩くたびに舞い上がり、その感触と耳ざわりは、「癒される」という言葉が良く似合う。

初日に次第に赤く染まっていく白根三山は実に神々しく、新年が穏やかに明けていった。ふれあい館を厳寒の五時に出発する計画にもかかわらず、二十七名が参加した。はじめて冬山を経験した。「冬の入口に立って見ませんか。場所は櫛形山です」と計画した櫛形山登山は生涯忘れられない。膝丈まで雪に埋もれた登山道を初めてカンジキを履いて歩いた経験、葉を落とした樹林の向こうに広がる白銀の南アルプスの山々、吸い込まれると思うほどの真つ青な空の青と雪原の白、裸山のダケカンバの淡いピンク色の樹枝が空に向って手を広げている。

「九月の発足から数々の登山に参加してきたが、山に登るだけではなく、もっと多角的に南アルプスの山々を知りたい」と部員から出された意見が、「山の講座」に発展し、現在進行中である。山と人のかかわりの歴史や文化、地形、地質、気候、植物などや、地図の読み方を学習し、多角的に山をとらえていこうと芦安山岳館の協力を得て、「山の講座」が生まれた。顧問に恵まれていると前述したが顧問ばかりでなく山岳館の存在しかりである。第一回 一月二十七日
「南アルプスの登山の歴史」塩沢久仙氏
第二回 二月二十四日
「気象の知識」保坂悟氏
第三回 三月二十三日

「櫛形山の動物たち」石原誠氏
第四回 四月二十日

「誰にもわかる山の地形・地質」手塚光彰氏
恵まれた講師陣、この山間の地まで足を運んでいただけるありがたさ等々、「倶楽部員だけでは、もつたない」との思いから新聞や山岳館メールなどを通じて一般の人にも呼びかけたところ、多くの人が受講していただいている。



日の出前、厳寒の中で北岳の輝きにも負けない満足げな笑顔

今夏には白根三山の縦走を計画している。計画を立ててみたものの、あの山、この山と迷いは尽きない。四季折々に山々は違った顔を見せ、どの頂に立つても、或いは立たずとも飽きることがない。何度登っても、いつ登っても感動はそれぞれ異なる。今年ほどの山にいけるだろうか。

市内には素晴らしい山々や自然がある。このかけがえのない自然資産を守り、未来に伝えるために、職員の同好会だからこそ何ができるか、職員として何ができるか、何をすべきか問うていきたい。

北岳ゆめ倶楽部 杉山 記
南アルプス国立公園指定40周年記

念事業「南アルプスよ永遠に！」さらに春の登山教室開催のお知らせ！

南アルプスは一九六四(昭和三十九)年六月一日に国立公園に指定され、本年は四十周年の節目の年に当たります。そこでこの一大山岳地を市名に持つ南アルプス市が豊かな自然と共存してゆくことをめざして記念事業を開催します。

開催日時 平成十六年六月二十五日(金) 午後一時三十分

開催場所 「あやめホール」

主催 南アルプス市

後援 関係省庁及び町村

内容 記念式典・シンポジウム

記念コンサート

第十回春の登山教室開催要項

開催日時 平成十六年六月二十六日(土) 午後一時

午後五時まで

研修会 「山と気象の話」村山貢司氏予定

登山 櫛形山ハーフ縦走

参加費 登山教室—一九、〇〇〇円

前日の記念事業にも参加し芦安に宿泊される方—二五、〇〇〇円

申込問合せ

芦安ファンクラブ事務局

南アルプス市芦安音倉一五八九八

「ペンション・らんたん」大滝

電話 〇五五—二八八—二五三一

Fax 〇五五—二八八—二五三一

南アルプス芦安山岳館

電話 〇五五—二八八—二二二五

FAX 〇五五—二八八—二二二二

「山も自然も知りたい講座」第一回開催

一月二十七日、南アルプス芦安山岳館にて第一回「山の講座」が、北岳ゆめ倶楽部と山岳館の共催で行われた。この講座は発足間もない南アルプス市職員で組織する「北岳ゆめ倶楽部」が山の知識を深める為に企画された。より多くの人たちに参加してもらうために、広く一般にも呼びかけ参加者は計四十二名の盛況となった。まず、北岳ゆめ倶楽部の会長である小池通義助役が「南アルプス市」になったからには職員同士が情報を共有して総ガイドになれるようにしていきたい」と挨拶し、その後、当山岳館の館長であり、広河原山荘の管理人でもある塩沢久仙館長の「登山の歴史」と題して講演が始められた。

講演は旧石器時代から始まり、近代登山の始まりまでで時間になり終了した。日本古来の自然崇拜の思想では、火山や峻厳なる岩塊に覆われた山、森や樹木、水量豊かな川や滝などの自然物、又は自然の地域に神が降臨するとされていた。日本人は自然に対する畏怖と感謝の念を持って接してきたと説明した。さらに、日本で最初に開山された九州にある英彦山の話や、奈良時代に神道、仏教、密教と深いかかわりを持ちながら修験道が生まれ、その行者たちが立山、白山、出羽三山、鳳凰山などを次々と開山し、信仰登山が盛んになった話など、参加者は真剣に聞いていた。後半は信仰登山から戦略上の登山、諸藩の山林巡視、甲斐駒ヶ岳、北岳の開山など先人たちの山との関わりなどを勉強した。参加者を退屈にさせない館長の話術で時折、笑いが漏れ

るなど和気藹々とした雰囲気で一時間三十分があつという間に過ぎてしまった。最後に、人間科学、自然科学、人文科学、社会科学と、館長が体系的に分けた登山の楽しみ方を参加者に提示して終わった。明治以降の近代登山の歴史については、時間のためさわりしかできなかった。参加者からはぜひ二回目を開き、今回話せなかったことを聞かせてくださいという意見が多数寄せられた。次回は気象予報士の保坂悟氏を講師に招き、「雨はどうして降るのか？雲はどうしてできるのか？」など、「気象の基礎知識」について講座を開く。今回の講座は、新聞に募集記事が掲載されたため、あつという間に定員になってしまった。このような講座を望んでいる人のためにこれからも楽しい講座を企画していきたい。
南アルプス芦安山岳館 深沢 記



南アルプス芦安山岳館情報

「ヤッホーが きんぐくる」 ヤッホー
山の版画家 展のお知らせ
畦地梅太郎

南アルプス芦安山岳館では、表記の企画展を山梨日日新聞社・山梨放送の共催で開催いたします。山を愛し、家族を愛した畦地梅太郎は、一九〇二(明治三十五)年愛媛県に生まれ、二〇歳頃から通信教育で画家を志し、印刷工や看板描きのかたわら小説や詩、短歌などを新聞に投稿していた。その後平塚運一や小林万吾に指導を受け版画の道にすむ。五〇才で初めて「山男」(登攀の前)の作品を国画会に発表する。のち山岳作品や山男などの作品を発表し続け山岳版画家といわれた。畦地の画業は東京や故郷の風景、山岳風景、山男や家族など巾広く作風は具象、半具象さらに抽象と多様にわたるが、いずれも対象の美しさや感動を表現し作家の人となりを感じさせるあたたかみのある和やかで限らない魅力ある作品であります。

☆ 開催期日
平成十六年四月二十四日(土) ～
平成十七年一月三十一日(月)

☆ 開催場所
南アルプス芦安山岳館 ラウンジ

☆ 開催時間
九時 ～ 十七時

☆ 入館料
(入館は六時三〇分まで)

☆ 休館日

毎週水曜日(祝日の場合は翌日)
七月二〇日～八月三十一日は無休



鳥とともに



山に叫ぶ

☆ 入館料
南アルプス市芦安山岳館の入館料
でご覧になれます。
大人：二〇〇円
子供(小学生まで)：一〇〇円

☆ その他
展示作品は七十点として、版画の代表作三十点を常設とし山岳風景、家族をテーマとした版画、油彩、肉筆画、ガラス絵で2回の展示替えを予定している。また、作者の愛用した筆、彫刻刀、ばれん、山用具、資料展示を行う。